

平成 3 1 年度

事 業 計 画 書



社会福祉法人あすか福祉会

特別養護老人ホームゆいの里あすか

基本理念

「その人らしい生活」が継続できるように

法人の目的

多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、その有する能力に応じ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。

1 基本的な考え方

団塊の世代のすべてが75歳以上の後期高齢者となる2025（平成37）年を目途に、介護や支援が必要になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。

「地域で安心して暮らしていけるよう」、法人として地域の実情に応じて介護サービスを提供する体制を推進し、施設機能の充実を図るとともに行政機関との連携を強化、高齢者福祉の増進をめざして取り組む所存である。

2 事業内容

(1) 入所者の確保

経営の安定を図るため、できるだけ速やかに入所定員に達するよう、引き続き近隣の病院、居宅介護支援事業所、介護老人保健施設、市町村などの関係機関を訪問し、入所者の確保を図る。

入所者の見込み												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
特養(人)	22	26	29	29	37	38	48	50	50	50	50	50
短期(日)	0	12	30	52	84	120	180	220	240	285	295	300

(2) 人材の確保

新しい経済政策パッケージにおいて、介護人材確保のための取り組みをより一層進めるため、経験・技能のある職員に重点化を図りながら、介護職員のさらなる処遇改善が検討されている。

法人としては介護職員をはじめ職員の処遇改善を図るとともに、生産性の向上を目的に職員の資質向上を図る。

(3) 医療・介護機能の強化

住み慣れた地域で自分らしい生活を続けることを支えるため、医療・介護サービスの充実を図り、在宅等にも看取りの場を拡大していく中で、施設がそれを支援するとともに、セーフティネットとしての役割を果たすことが期待されている。今後、終末期支援のニーズはさらに増加することが予測される。

「自分らしい最後」を支援するため、ご利用者様やそのご家族様の意向の尊重と手厚い看取り看護体制の強化に向けさらなる人員の確保に努める。

(4) 栄養マネジメントの充実

ご利用者様が認知機能や摂食、嚥下機能の低下によって食事の経口摂食が困難となった場合でも、食事する楽しみを得られるように、医師、看護師、管理栄養士などの多職種共同での支援の充実と促進を図る。

(5) 職員のスキルアップ

ご利用者様やご家族様のニーズに的確に応えるため、また、福祉サービス利用者の増加並びにニーズの多様化に伴う更なる専門的な知識と技術を兼ね備えた地域福祉の担い手を養成するため、都道府県などが実施する研修会をはじめ、あらゆる機会を利用してすべての職員の介護スキルアップを図る。(※研修計画：別紙①のとおり)